

メルマガ 「いいテク・ニュース」 季語に遊ぶ 2024年3月21日 (Vol.182)

弥生、卯月に観たい北斎の「富嶽三十六景」と俳句

弥生、卯月に観たい北斎の「富嶽三十六景」と俳句



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Katsushika_Hokusai,_Goten-yama_hill,_Shinagawa_on_the_T%C5%8Dkaid%C5%8D,_ca._1832.jpg

富嶽三十六景 東海道品川御殿山ノ不二 (とうかいどうしながわごてんやまのふじ)

めぐりくる季節に合う名画と俳句、前回からは葛飾北斎（かつしかほくさい）（1760～1849）の代表作で、日本美術の歴史を語る上で欠かすことのできない傑作として、国内外の人々に広く愛されている「富嶽三十六景」を紹介しています。

今回はその二回目として弥生、卯月に観たい作品と俳句です。

19世紀後半のヨーロッパ芸術界を席卷した「ジャポニズム」。

その火付け役となったのは、日本からフランスに輸出された陶磁器を包む緩衝材として使われていた「北斎漫画」だと伝えられています。

これがある芸術家の目にとまり、そのデザイン力と多くのモチーフをいくつものパターンで表現する発想力に驚き、それがきっかけで、北斎や広重を筆頭とする日本の浮世絵など彼らの芸術作品が注目を集め、瞬く間にヨーロッパ中に広がって行きました。

フィンセント・ファン・ゴッホ、エドゥアール・マネ、エドガー・ドガをはじめ印象派の名画家たちが心酔し、天才ガラス工芸家エミール・ガレなど工芸の世界で活躍する芸術家たちも北斎や広重の作品の影響を色濃く受けました。

2020年、日本のパスポートが28年ぶりにリニューアルされ、査証ページの背景に「富嶽三十六景」の作品が敷かれるようになりました。

また、今年、2024年にお目見えする新千円札の裏面に「神奈川冲浪裏」が採用されることになっています。

まさに今、注目されている「富嶽三十六景」のうち弥生、卯月に観たい作品と俳句をお楽しみ下さい。

1. 富嶽三十六景 八 青山円座松（あおやまえんざまつ）



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:The_coast_of_seven_leages_in_Kamakura.jpg

円座松とは、東京都青山の龍巖寺（りゅうがんじ）にあった巨大な松のことで、笠松とも呼ばれた銘木です。

「枝のわたり三間（さんげん、約 5.5 メートル）あまりあり」と言われたほどの大木でした。

円蓋状の円座松は小山のようで、こんもりとした形は背後に聳（そび）える鋭角的な富士山と対比させられています。

その円座松の後ろにすやり霞（日本画に用いられる横にたなびく霞）を描き、松と建物の屋根が作り出す逆三角形の余白は富士山と対称になっています。

画面右下、小高い丘の上では毛氈（もうせん）を敷いて男たちが円座松を見物しながら、酒を酌み交わし、楽しんでいます。

親子連れは手拭の端を握りながら登ってきたようで、父親は富士山が見えることを指をさして教えているようです。

画面左下をよく見ると、松の枝の下に人の足と箒が見えます。

松の葉をかき集めて庭を綺麗にしているようで、全身を描いていないところが北斎の遊びごころです。

また、江戸から富士山への距離を考えれば、画面のように富士山が大きく見えることもありえませんが、巨大な松と富士山を比較する面白さを優先しています。

松は常緑樹で他の木々に対して「色かへぬ」ところが特徴ですが、晩春の頃になると枝先に 10 ～ 30 センチほどの蠟燭（ろうそく）のような松の芯と呼ばれる新芽をたくさん直立させます。

ここではそんな晩春の季語「松の芯」を詠んだ句を選びました。

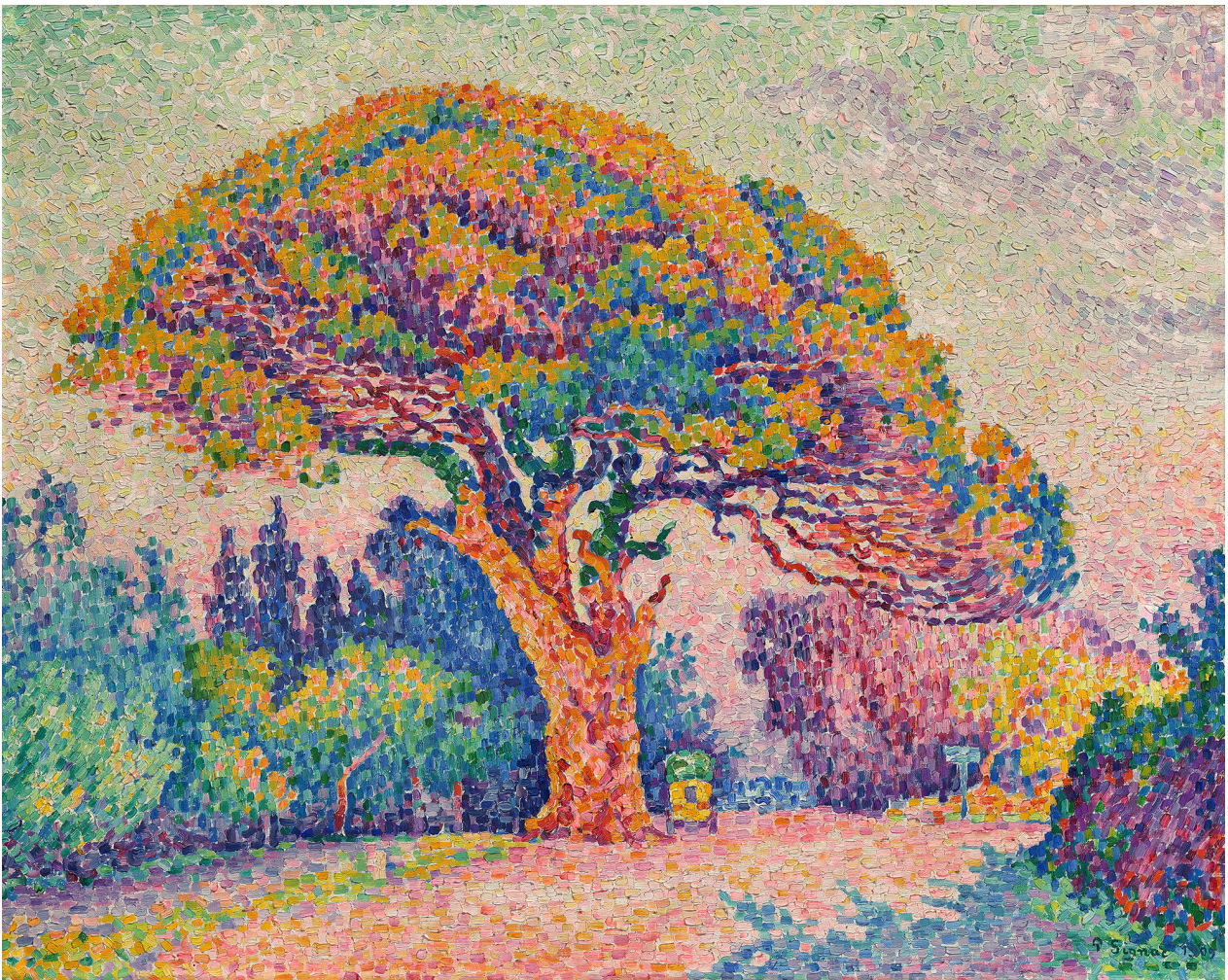
松の芯つどへる人に立ちこぞり

山口青邨

松の芯とときに女も車座に

宇多喜代子

日本では浮世絵をはじめ、多くの画家によって松は描かれています。
西洋では松を描いた著名な作品は少ないですが、珍しく松を描いている作品がありました。
新印象派の代表的画家、ポール・シニャック（1863-1953）が描いた「サントロペの松の木」です。
地中海の自然の美しさを示す点描画法の傑作とされています。
同じ松を描いても、浮世絵とはまったく違う鮮烈な印象を受けました。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Paul_Signac,_1909,_The_Pine_Tree_at_Saint_Tropez,_oil_on_canvas,_72_x_92_cm,_Pushkin_Museum,_Moscow.jpg

ポール・シニャック（1863-1935） | 「サントロペの松の木」 | 1909年 | プーシキン美術館

2. 富嶽三十六景 三十六
 五百らかん寺さざみどう (ごひゃくらかんじさざいどう)



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Sazai_hall_-_500_Rakan_temples.jpg

五百羅漢寺は東京都江東区大島三丁目にあった黄檗宗（おうぼくしゅう）の寺院で、寺院名は当初五百三十六体の羅漢像を祀っていたことに由来します。

堂内に建設された三匠堂（さんそうどう）は内部が三層の螺旋状の構造をしていて、同じ通路を使わず上り下りできた特異な建物で、その形が栄螺（さざえ）の貝殻のようであったことから、「さざみ堂」とも呼ばれていました。

その三匠堂の最上階から隅田川越しに見える景色が評判で多くの見物客が足を運ぶ名所でした。絵の右端で座り込む女性を除けば、大人も子供もみんな、遠く見える富士山に目を奪われています。彼らの後ろ姿によって、作品を鑑賞する私たちも、一緒に富士山を眺めている気持ちになります。また、床の板目や屋根の軒の勾配の方向が、富士山に向かっていることも分かります。西洋の遠近法が用いられ、消失点が富士山に集中しているところが、北斎の構図に対するこだわりなのでしょう。ここでは、作品名の「さざみどう」から三春の季語「栄螺（さざえ）」を詠んだ句を選びました。

栄螺の荷三日月すでに朧なる

大野林火

海光のなほまつはりて栄螺籠

鷹羽狩行

北斎の作品はヨーロッパの芸術家たちに影響を与えました。

スウェーデンの国民的画家、カール・ラーション（1853-1919）の「魚釣りをするリスベート」は連続する木製の欄干や後ろ向きの構図がよく似ていて、ラーションが北斎の影響を受けていたのうかがえます。

さらに右端からのどく木の葉と小舟も日本美術の手法を思わせます。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lisbeth_metar_av_Carl_Larsson_1898.jpg

カールラーション（1853-1919） | 「魚釣りをするリスベート」 | 1898年 | スウェーデン国立美術館

3. 富嶽三十六景 四十
東海道品川御殿山ノ不二
(とうかいどうしながわごてんやまのふじ)



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Katsushika_Hokusai,_Goten-yama_hill,_Shinagawa_on_the_T%C5%8Dkaid%C5%8D,_ca._1832.jpg

江戸から東海道を通過して、西に向かう際一番初めの宿場町が品川宿で、江戸四宿（しじゅく）で最も多くの旅籠（はたご）や茶屋が立ち並んでいました。この品川宿や江戸湾を見下ろす小高い丘が御殿山です。八代将軍、徳川吉宗が吉野から桜を移植し、江戸湾の眺望と桜を同時に楽しもうとする人々で賑わいました。この絵は、御殿山で江戸湾を一望できる見晴らしの良い場所に莫菴（ござ）を敷き、酒を酌み交わしたりして、花見を楽しんでいる庶民たちの行楽の雰囲気生き生きと描いています。

絵の中央、かなり伸びた桜の枝と枝の間に富士山の姿が海に浮かんだように配置されています。しかし、品川から江戸湾を見下ろす場所からは富士山はどう考えても見えません。北斎の他の作品にもしばしば見られますが、彼は、必ずしも目に映る風景を描いている訳ではありません。他の絵でも、さまざまな題材から、もっともらしい風景に仕上げてしまいます。それにしても、江戸から遠く離れた場所ではなく、江戸に住む人なら誰でも知っている御殿山の景観を改変して描いてしまうとは、北斎らしい大胆さです。

虚構はありますが、構図や華やかさは富嶽三十六景の中でも出色です。

また、広重も「御殿山花盛」という作品を描いていますが、富士山は描かれていません。

幕末には国防のため、外国艦隊に対抗する砲台を設置する台場（だいば）を建築する必要があり、このあたりは土砂採取場となり、御殿山は大きく切り崩されてしまうことになります。

ここでは、花盛りを愛でるだけでなく、咲く花をまちわび、散る花を惜しみ、もののあはれを教えてください。桜と海を詠んだ句を選びました。

雲や匂ふ海も桜も富士の枝

上島鬼貫（うえしまおにつら）

ちるさくら海あをければ海へちる

高屋窓秋（たかやそうしゅう）

富士山と桜が描かれた興味深い作品があります。

それはフィンセント・ファン・ゴッホ（1853-1890）の「タンギー爺さん」で、フランスの偉大な彫刻家、ロダンが所有していました。

モデルのタンギー爺さんの背景に6点の浮世絵が描かれていて、帽子の上には富士山、その右横には桜が描かれています。

タンギー爺さんは前衛絵画を愛好した画材商で、彼は売れない画家の作品を絵の道具と引き換えに受け取ることもあり、ゴッホの絵を店内に展示していました。

そんなタンギー爺さんをあたかも、後光がさす慈悲深い仏陀に似た存在として表現しています。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Van_Gogh_-_Portrait_of_Pere_Tanguy_1887-8.JPG

フィンセント・ファン・ゴッホ（1853-1890） | 「タンギー爺さん」 | 1887年 | ロダン美術館

「東海道品川御殿山ノ不二」から連想し、「花より団子」ならぬ「花よりさくら餅」から一句詠んでみました。

二三分（にさんぶ）の花にさきがけさくら餅

白井芳雄

全体を通じての参考文献、出典：編者 日野原健司

『北斎 富嶽三十六景』（岩波書店）（2020年）
ISBN978-4-00-335811-5

監修・著者 狩野博幸

『葛飾北斎名作100選』（宝島社）（2023年）
ISBN978-4-299-04727-4

監修 永田生慈

『もっと知りたい葛飾北斎 生涯と作品 改訂版』（東京美術）（2022年）
ISBN978-4-8087-1141-2 C0071

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修

『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』（講談社）（2008年）
ISBN978-4-06-128972-7

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 春』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400504-7 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 夏』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400499-6 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 秋』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400500-9 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 冬』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400502-3 C0392

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

本メールマガジンのご感想や本メールマガジンへのご意見・ご要望等 melmaga@tic-co.com まで、
どしどしお寄せ下さい。

株式会社 技術情報センター 〒530-0038 大阪市北区紅梅町2-18 南森町共同ビル 3F

TEL : 06-6358-0141 FAX : 06-6358-0134 E-mail : info@tic-co.com